

社会福祉法人道志会は今年で四十三年目となりました。また、戦後八十年目を迎えた今年には、災害の無い年でありますようにと祈りながら筆を取っております。

コロナ感染以降の日本を考えると、私達世代が歩んで作り上げた国は良かったのか悪かったのか？ 未来を託す若者に対する責任を考えた時、胸を張って喜んでもらえるでしょうか？ 色々と便利な世の中にはなりました。しかし、自然を破壊し産業社会は拡大し、デジタル化により人と人とのコミュニケーションが取り難くなってきました。このような時、ふと目に留ま

た雑誌の文章が、今後に向けて大切な事と思いましたが、ご紹介いたします。

テレビ・ラジオでおなじみの日本古来の食の伝道者として知られる永山久夫氏(93)の「親からもらった命をどのように使って死のう」という、生涯現役をテーマに綴られた文章です。

食文化史研究家である永山氏は、食糧不足の少年時代に結核に感染し、療養施設での闘病生活を余儀なくされ、闘病中は親孝行が出来ずに過ぎられました。

「親孝行は健康管理が必須」と考えた永山氏は、野草の蓬、山芋、野蒜などを食べて結核

を薬に頼らずに自力で治し、「食べ物を使いようで薬より力がある。日本食文化のお米も大切。」と、「食」に開眼されました。

永山氏が毎日必ず食する物は、胡麻を油で炒めて砂糖を少々入れた味噌で和えた「胡麻味噌」。胡麻味噌は骨に良く、胡麻は白より黒が良い。「きな粉や納豆」は頭の回転を良くする。「梅干し」は感染や腸に良いとのこと。

日本は百歳以上の高齢者が九万五千人以上で世界トップだそうです。永山氏は「長生きは最大の親孝行であり、親の思いにこたえる唯一の方法は長生きして世の中に貢献することではないかと思う。人との出逢いは必然、大切な命「長寿食の国」として注目される国になるよう祈っている。」とありました。

この文章は私の心に深く沁みました。近年、気候変動で農作物は大きな影響



芋掘り後の語らい

新年あけましておめでとうございます
親から頂いた命

発行所
社会福祉法人
道志会
神奈川県綾瀬市早川城山2-11-3
☎0467-76-3399 (代表)
発行人 川邊 溪子

理事長 川邊 溪子



を受けています。今後は今までのような食生活が難しくなる事を念頭に置き、私達は生活していく事が大切になると思います。親から頂いた命を大切に、日々感謝の気持ちで一日一日を大切に生きて行きたいと思いました。

ことしも職員とご入居者の皆様、ご家族や地域の皆様のご協力とご指導をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

能登半島地震における介護職員派遣活動報告

道志会老人ホーム ケアワーカー 田中 聡

令和6年1月1日に発生した能登半島地震の介護支援のためのボランティア活動(令和6年6月16日～6月20日の5日間)に参加させていただきました。場所は金沢市いしかわ総合スポーツセンターのサブアリーナです。6月の時点で生活されている方は6名でした。避難者数がここまで減少したのは、日本各地からの支援の方々が生懸命バトンをつなぎ続けた結果です。一般的な総合体育館の半分程度の大きさに112床ベッドが用意されています。なので、ほとんどの居室が現状空き部屋となっています。避難されている皆さんはお元気で、介助は見守りが中心でした。避難者の方同士でコミュニケーションが形成されており、近所に遊びに行く感覚で、自由に居室を歩きまわっていました。中には「私は珠洲市から避難して来たのよ、みんな駄目になっちゃったの」と笑い話として気丈に振るまうその姿に逆に私たちが励まされた瞬間でした。

ら車で1時間程の田舎町なのですが、至る所で屋根にブルーシートが張られ、崩れた家屋、道路から突き出たマンホール、陥没した道路が今でもそのままの状態でした。輪島市や珠洲市のように見渡す限りの家々が崩れているわけではなく、地盤の柔らかい区域だけが崩れている感じでした。ただし、崩れてはいなくても多くの家が傾いていて、住むことが出来ない家には、危険と書かれた赤い紙が貼られていました。両親の話では、能登半島は戦争の際に空襲がほとんど無く、それが今回仇となつてしまったとのことでした。驚いたのが、復旧のための機材が至る場所に置いてあるのですが、ほとんど稼働していませんでした。そうかと思うと金沢駅付近は人が溢れかえっていて、被災地と金沢市とのギャップの大きさに驚き、過疎地の現実というのを思い知らされました。

今回、この様な貴重な経験をさせていただけた事を感謝いたします。1日も早く復興が進んで元の生活に戻る事を切に願います。

能登半島地震における福祉的支援の活動状況について

法人事務局 副事務長 北村 雅英

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、数多くの福祉施設が被災しました。

道志会では能登半島地震の被災地に施設長を初めとして延べ4名の職員を派遣し、支援にあたりました。

現地ではインフラも被害を受け、断水などの影響から福祉サービスの利用者・施設の入所者へのケアが困難な状況になりました。日頃から慢性的な人手不足があり、現場の職員も被災したことから、被災地以外の場所に避難する広域避難(1.5次避難・2次避難)も行われることになりました。

国・地方自治体は、被災地の避難所等への福祉的支援として下記の支援活動を進めました。

1. D W A T (災害派遣福祉チーム)

D W A Tは、大規模災害時に、一般避難所等における災害時要配慮者の福祉ニーズに的確に対応し、その避難生活中における生活機能の低下等の防止を図りつつ、一日でも早く安定的な日常生活へと移行できるよう、必要な支援を行う福祉専門職等で構成するチームと定義されています。

被災地においてD W A Tは様々な避難所での支援活動を行い、1.5次避難所内においては「なんでも福祉相談コーナー」を設置し、避難された方の相談・支援が行われました。

2. 介護職員等の派遣

(1.5次避難所、福祉施設)

被災により職員が不足する施設や避難者を受け入れる施設等と都道府県等を経由して登録された全国の介護職員等をマッチングし、応援職員がボランティアで派遣されました。

1.5次避難所である「いしかわ総合スポーツセンター」には、ケアに当たる介護職員等が派遣されました。

福祉避難所の開設についての状況は、内閣府の資料から以下のように報告されています。

・平時においてあらかじめ、福祉避難所として指定又は協定を締結していた施設については、施設の被害や職員等の被災等により、福祉避難所としての開設は一部に留まった。

・介護職員も被災者であったことから、応援職員の派遣等の取組が行われた。

・要配慮者スペースが設置された一般避難所があったほか、積極的に2次避難の呼びかけを行うなど、要配慮の方を支援。

道志会では今後起こりえる地震等の自然災害に対応するBCP(事業継続計画)は事業所ごとに能登半島地震が起こる以前から策定しております。

福祉サービスの利用者の方・施設の入所者の方の命を守り抜くため、必要な備え(食料・衛生用品等の備蓄はもとより、井戸による生活用水の確保等)を都度見直してまいります。

県央東部4市高齢者施設連絡協議会シンポジウム内研修発表会に参加して

道志会老人ホームケアマネジャー 松村 さをり

11月22日に海老名市で開催された県央東部4市高齢者施設連絡協議会シンポジウム内研究発表会で、「地域包括ケアシステムにおける介護施設としての役割の一考察」と題して私たち入所施設が地域の中で出来る実際行った例を題材にして、老人保健施設メイプルのケアマネジャー白井様と共同発表を行いました。地域包括ケアシステムとは高齢者の生活を支援するために医療や介護、地域住民、当事者を含む様々な人たちが力を合わせて対応していこうというシステムです。



今回、「家に戻りたい」「戻れなくても綾瀬を離れたくない」というニーズを持つご利用者様の支援について発表しました。メイプルご入所中に在宅への復帰を希望されていらした方ですが、車いすの生活だった為ご自宅での生活は難しいとシルバーカー歩行訓練のリハビリを重点的に行っていました。ご家族としては「もう少しリハビリをして自分で歩けるようになった状態で家に戻れたらありがたい」ということでした。道志会老人ホームへご入所申込み時、メイプルでのリハビリ内容、ご本人とご家族の希望の情報共有を行いました。

その後道志会老人ホームへ入所され、機能訓練指導員の個別指導計画書のもと、生活の中で行えるリハビリ、屋外・屋内の歩行訓練や歩行距離を少しずつ伸ばしていく事など、ご本人もご自

宅へ帰れることを目標に、毎日職員と一緒に取り組んでくださいました。その結果以前より歩行が安定、介護度が改善していききました。そして在宅復帰へ向けてメイプル再入所が実現。希望されていた「綾瀬から離れたくない」を実現する事ができました。メイプル再入所後の現在、在宅復帰を視野に入れ、各種調整を行いながら、リハビリを続けていらつしやいます。



この事例を通して特別養護老人ホームと老人保健施設の施設間の情報共有の在り方や方法について課題等を確認できました。この研究発表は一般の方々にも聞いていただけるものでした。高齢者施設は地域包括ケアシステムにおいてどのような役割を果たしているのか、特別養護老人ホームとは、老人保健施設とはどのような施設なのかを知っていただけるいい機会を頂けたと思っております。又今回の発表を通して高齢者施設の役割をお伝えする事で、地域の皆様に高齢者支援についてご理解いただき、共に支え合う社会を築いていくきっかけとなれば幸いです。今後も地域包括ケアシステムの一員として綾瀬市内に留まらずご高齢者の支援に邁進したいと思っております。



研究発表につきまして、こうした機会に慣れておらず、メイプルの白井様はじめ職員の皆様方、又道志会入居者のご家族様、関係職員にもアドバイスを頂き励まされ無事に終えることができました。心より感謝致します。

皆様のご厚意とご協力に心より感謝申し上げます

「車椅子の寄贈について」

この度、道志会理事の大滝様よりホームに、リクライニング1台、チルト3台、普通型13台のはね上げ式車椅子をご寄贈していただきました。平均介護度42のご入居者の移乗介助に伴う職員の負担軽減のためにスライディングボードを導入したものの、はね上げ車椅子が少なく対応できていませんでした。今回頂いた車椅子で職員の負担軽減はもとより、ご入居者への安楽なケアに繋がります。



「作品展バザーの収益について」

11月に開催しました「道志会作品展・バザー」には、多くの皆様にご来場いただきありがとうございました。ご入居者、ご利用者、ご家族、取引先様、地域の皆様に沢山のバザー用品をご提供いただき重ねて御礼申し上げます。

目標としておりました収益金が集まり、ご入居者・ご利用者が使われる昇降テーブルや車椅子を購入することができました。大きなご支援をありがとうございました。

「道志会老人ホームより」

エアコンの入替工事が全館完了致しました。工事期間中はご入居者をはじめ、ご家族、ご来園の皆様にご理解、ご協力を賜りありがとうございました。

道志会の月ごとのイベントを御紹介して行きます。

西デイ



「飾りつけはバランス!!」
離れたところから
見て下さってます

綾瀬西高校生徒さん
企画の玉入れが
はじまりま〜す

ウイラ



西デイ

ねらった色を取れるかな
むずかしいな



保育園

天の川を渡って
ご対面



ウイラ

昼間のビールはうまいね〜



ホーム

夏祭り



ウイラ

花笠かぶってハイポーズ



みんなで盆踊り

ケア
センター



敬老の日 安来節 歌い踊りました



104歳 106歳 105歳
道志会のサービスご利用者ご長寿ベスト3の3人様です
合わせて315歳!!



ホーム



おめでとうございます



ボランティアさんもお祝いにかけつけてくださいました



敬老のお祝いカード 園児さんの手作りです
いつまでもお元気でください

ヴァイ



園児さんのお遊戯も楽しみました

トリックオアトリート
少しむずかしかったけど
お菓子をいっぱい
もらいました



ホーム



仮装しました！



ご入居者より
ノートをいただきました



ホーム



西デイ



初ハロウィン
かわいいお化けに変身です

ホーム



トリックオアトリートに、不二保育園の園児さん10名が
ホームのフロアに来てくれました



秋はホームでお芋掘り、焼き芋もやりましたよー！

ホーム



さつま芋は
天ぷらも
美味しいね～





作品の前でハイポーズ

西デ



保育園の森を作りました

保育園



自慢の作品と一緒に

ケアセンター



昨年の干支の龍とクリスマス帽子

ウイラ



綾瀬西高校の各クラブから出展いただきました

西高



手芸クラブの作品です

ホーム



バザーも大盛況でした



繊細な手縫の作品に感激です

西デ



綾北中学校マーチングバンドの皆さん
今年も迫力ある演奏をありがとうございました

ホーム

「高瀬一郎様 コンサート」

ヴィアラ城山住宅相談員 東海林 佐和子

10月25日、有料老人ホームヴィアラ城山の一階レストランにて、日本コロムビアレコード所属の高瀬一郎様のコンサートを開催致しました。

高瀬様は鹿児島県出身、昭和54年NHKのど自慢ランドチャンピオン、昭和56年デビュー曲の「ごめんなさいね」で日本コロムビアレコード新人受賞。現在は熱海市観光宣伝大使を務めるなど、ご活躍されています。



ヴィアラのご入居者を始め地域の方も多数来園される中、高瀬一郎様が登場。コンサートが始まり誰の耳にも心地よい歌声に一瞬で釘付けになったのは、私だけではなかったと思います。ご入居者の中には歌声に聞き入るあまりに「伴奏は流れていたの？」「アカペラじゃなかったの？」と聞いてこられる方もおられました。

高瀬様と一緒に歌った「ゆうやけこやけ」、デビュー曲の「ごめんなさいね」では会場に居たみなさまで一声に「一郎」の掛け声をかけながら、歌謡曲からシャンソンまで、幅広く歌って頂きました。楽しい時間はアツと言う間に過ぎプロの歌手が目前のステージで歌っている姿を楽しまれ、直後から歓喜の声が多く寄せられました。

★高瀬一郎様 活動予定
・令和7年1月19日
熱海老舗旅館「新かどや」恒例の新年会
・ラジオ番組
毎週木曜日19時「高瀬一郎ゆのまち横丁」FM熱海湯河原 Ciao 79.6MHz全国どこからでも「レディモ」アプリを使うと聞く事ができます。

職員親睦会でバス旅行に行ってきました!

居宅ケアマネジャー 佐藤 景子

職員親睦会は様々な事業所の職員の親睦を図る為に暑気払い、バス旅行、忘年会を企画しています。この数年はコロナ禍で活動を縮小していましたが、今年度から親睦会の活動を再開致しました。

10月に2班に分かれバス旅行に行つて参りました。バス旅行はコロナ禍の影響もあり、実に5年ぶりとなりました。今回は箱根方面を企画しました。箱根園では寄木細工体験、富士屋ホテルで昼食、ラリック美術館鑑賞、小田原鈴廣でお土産の購入等々。寄木細工では個性が光つたコースターが出来上がりました。今回の旅行のメインは富士屋ホテルでの昼食でした。5大クラシックホテルの1つであるホテルの付まいは圧巻で、ドレスコードに身を包みメイソングラム・ザ・フジヤの格天井の636種類の草花や柱の鬼瓦など、美術館のような空間でナイフとフォークと格闘しながら、フランス料理を堪能しました。ラリック美術館ではアール・ヌーボーやアール・デコの素晴らしい作品を鑑賞しました。



後日談になりますが、旅行翌日にはデザートに出されたプラマンジェが忠実に再現されてホームの昼食で提供されました。



旅行で体験したことが日々の業務に還元されたことは親睦会役員としてとても嬉しく思いました。今回の旅行など、親睦会の活動を通して他部署の職員と関わることの大切さや楽しさを改めて実感することが出来ました。

親睦会の活動は法人はじめ家族会の皆様の御協力に支えられています。本日に有難うございます。今後共親睦会の活動へのご理解ご協力を宜しくお願い致します。

編集後記

暑かった夏が終わり、秋があったのかと思わせる間に冬が来てしまいました。季節感を取り入れて様々な行事を紹介しました。移りゆく季節、年月の中で道志会も43年を迎えております。先日職員旅行の際に富士屋ホテルの支配人さんからホテルの歴史について教えていただきました。明治・大正時代に生きた先代のホテル学校(従業員育成)・花御殿の建設等の功績、レストランに自分の肖像を置いて従業員にらみを利かせていたというチャーミングな一面を私と年齢がそう変わらない支配人さんが嬉々としてお話しされる様子にとっても感銘を受けました。歴史が長くなると失われてしまいたいようなことも、ここにいる人たちが繋いでいく事の大切さを感じました。富士屋ホテルのファンになりました。宿泊するには少し勇気がある金額ですがいつか自分への褒美として宿泊してみたいと思います。

法人事務局事務長 倉下 学



道志会 老人ホーム



道志会 ケアセンター

おことわり

※今回掲載させて頂いたご入居者・ご家族の写真や文章については了解を得ております。
※会報発行にあたりご意見等をぜひお寄せください。

